金沢歌劇座あり方検討懇話会

取りまとめ

令和２年２月

金沢歌劇座は、県内最大規模の約 1,900 人が収容可能な大ホールを有しており、芸術文化活動の拠点施設として利用されている。一方で、これまで大規模改修を重ねてきたものの、建設から 50 年以上経過し老朽化が進み、また、多様な公演に対応するための機能不足が顕在化してきた。

加えて、金沢歌劇座の周辺では、金沢 21 世紀美術館や鈴木大拙館が開館するとともに、また、令和 2(2020)年には出羽町に国立工芸館が移転することから、一帯は芸術文化関係施設が一層集積するエリアになる。

以上の点を踏まえ、金沢歌劇座あり方検討懇話会では、本市における芸術文化の拠点に求められる機能及び本多町歴史文化ゾーンにおける金沢歌劇座の役割の観点から、金沢歌劇座の将来あるべき姿について検討を行った。

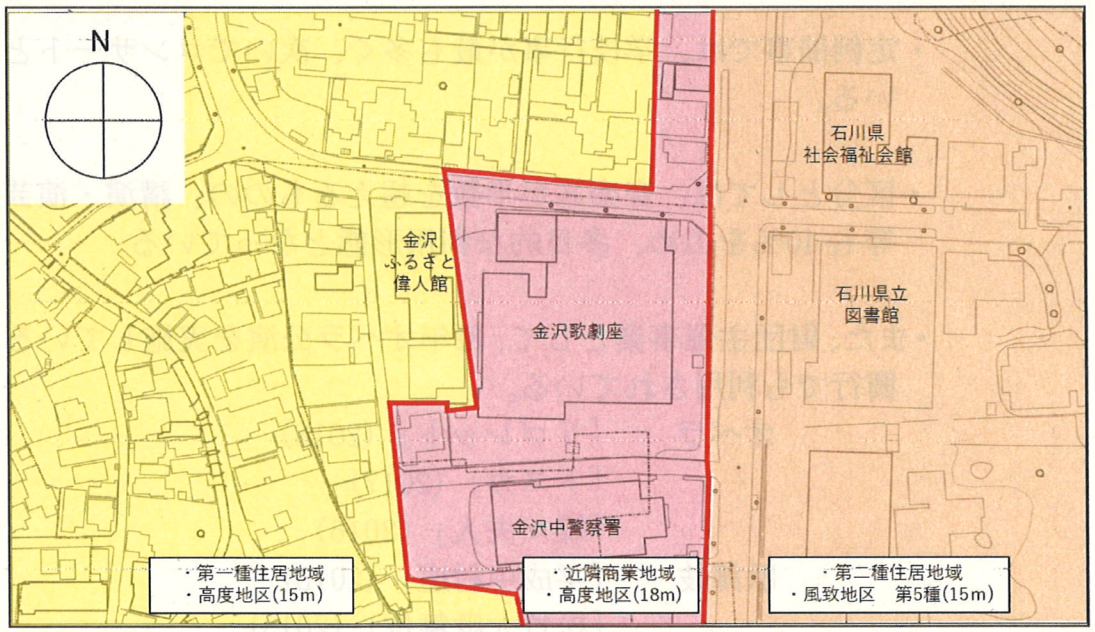
1．金沢歌劇座について

（1）建物概要

所在地	下本多町６番丁 27-6	高さ	21.1m
敷地面積	9,288.66 ㎡	座席数	1,919 席（大ホール）
建築面積	4,767.75 ㎡	設計	日建設計工務株式会社
延べ床面積	10,777.92 ㎡	監修	谷口吉郎
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造　地上５階　地下１階		

（2）都市計画関連

区域区分	市街化区域	容積率	300%
用途地域	近隣商業地域	防火・準防火地域	準防火地域
建ぺい率	80%	高度地区	18m



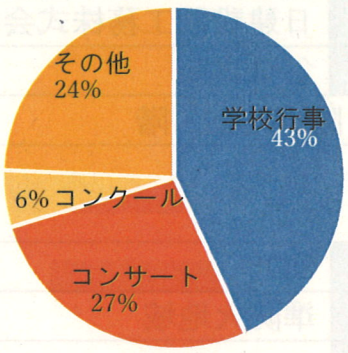
（３）沿革

昭和 37 年 5 月	本館竣工
昭和 45 年 4 月	別館竣工
平成 4 年	改修（大ホール客席椅子取り替え）
平成 11 年 5 月	改修（耐震補強、音響･空調の更新、本館内外装工事、バリアフリー化、エレベーター新設（２基））
平成 17 年 2 月	改修（オーケストラピット拡大、舞台塗装変更）
平成 19 年 10 月	名称変更（「金沢市観光会館」→「金沢歌劇座」）
平成 22 年 11 月	改修（舞台面積拡大、舞台照明設備更新、楽屋機能の充実、耐震補強）

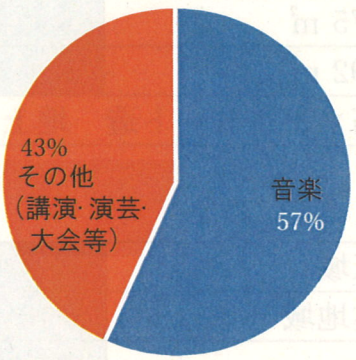
（４）利用状況等

①催事類型

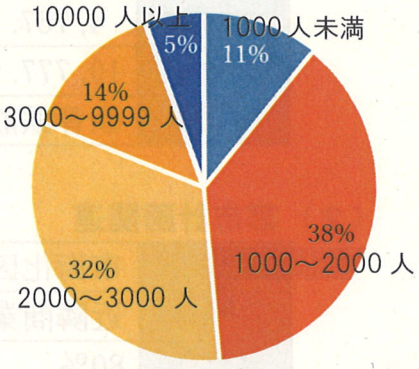
平成 27(2015)年４月から平成 30(2018)年 12 月に開催された催事のうち、３年連続開催されている 37 件の催事を抽出した。



催事種類



催事区分



来場者数(各催事延べ)

・定例催事では、学校行事が最も多く、次いでコンサートとなっている。

・区分としては、音楽系が半数を超えるものの、講演・演芸・大会等も 40%を占め、多目的な利用形態となっている。

・また、財団主催事業として、毎年オペラ公演を実施しているほか、興行でも利用されている。

オペラ　「リゴレット」(2018)
「トスカ」(2017)
「蝶々夫人」(2016)
歌舞伎　「平成中村座」(2015)
「松竹大歌舞伎」(2013)

②稼働率（%）

歌劇座大ホールの平成27(2015)年から平成30(2018)年の稼働率。

	2015	2016	2017	2018
年間	60.4	62.8	66.3	67.8

※算出方法：利用日数÷利用可能日（金沢芸術創造財団資料より）

・各年7月、8月、10月の稼働率は概ね80%を超えている。

・なお、平成29(2017)年12月～平成30(2018)年11月は、文化ホール休館の影響を受けた可能性がある。

2．経緯

（1）金沢歌劇座機能強化検討懇話会（平成30年度）

平成30年度に、「金沢歌劇座機能強化検討懇話会」を開催し、金沢歌劇座の芸術文化拠点としての機能強化策について検討した。併せて、機能強化策に関する調査を実施した。

・機能面における課題整理
・施設改善案
・金沢歌劇座の休館に伴う影響調査
・周辺交通量調査等
・来場者アンケート（芸術系及び学術系の催事の際の来場者）

（2）金沢歌劇座あり方検討懇話会（令和元年度）

「金沢歌劇座機能強化検討懇話会」における議論を通じ、金沢歌劇座の将来あるべき姿について検討した。

・本市における芸術文化の拠点に求められる機能
・本多町歴史文化ゾーンにおける金沢歌劇座の役割

3．金沢歌劇座のあるべき姿について

（1）立地について

欧州においては、まちの一等地に歌劇場などが立地している事例も多く、周辺には芸術文化に関する機能・施設のみならず、飲食店や小売店も立地し、劇場に立ち寄る前後の来客が期待できるとともに、来訪客もそうした一連の「観劇文化」を楽しんでいる。このように芸術文化ホールの立地は、まちの賑わい創出に寄与することから、まちなかにあることが望ましい。

金沢歌劇座の周辺には美術館や博物館が多く立地し、また近隣に商業地が複数あることから、金沢市における芸術文化ホールの立地は、現在の金沢歌劇座の敷地を念頭に置いて検討すべき。

・まちなかに芸術文化施設が集積することにより、様々な芸術文化関係者が交流することによる好循環を創出し、芸術文化の発信地となることが期待できる。

・まちなかに芸術文化ホールが立地することで、芸術文化だけでなく、経済面の活性化が期待できる。

（２）機能について

市民の芸術文化への関心・文化度の向上や、周辺地域の賑わい創出のため、芸術文化ホールが有するべき機能として次の３つを掲げる。

質の高い芸術に触れる場　**芸術文化活動を発表・披露する場**　**交流する場**

①質の高い芸術に触れる場

・世界的な演奏者や楽団の演奏など、質の高い芸術を鑑賞できる。

○オペラ上演に適した仕様を検討する。

オペラは総合芸術と言われ、音楽や演劇、美術など様々な要素からなり、質の高いオペラ鑑賞の機会を通じ、多彩な芸術を育てることにより、本市の芸術文化の向上に寄与する。

また、ホールには、オペラの他、ミュージカルや演劇など様々な公演のニーズがある。オペラ上演に適した舞台の天井高や奥行き、設備が整備されることで、様々な公演に対応できることとなる。

○舞台のみならず客席やロビー、屋外空間の機能向上を検討する。

公演用の舞台設備は当然のことながら、演者が使用するリハーサル室や楽屋、さらには、客席をはじめ、来館者が使用するロビーや屋外空間等の機能向上を図る。

［オペラ上演のイメージ］（提供：金沢芸術創造財団）

②芸術文化活動を発表・披露する場

・学校や地域、グループ単位で様々な市民の芸術文化活動を発表・観覧できる。

○吹奏楽など現在の利用形態にも配慮した仕様を検討する。

これまでも歌劇座においては、学校をはじめ、様々な団体が多様な公演を行ってきており、今後もこれらのニーズに対応が可能な仕様とする。

○市民の文化度の向上を図る。

市民が質の高いホールで、一流の演者と同じ舞台に立ち公演ができることは、活動の励みとなる。そのことにより市民の文化度の向上を図る。

[吹奏楽演奏のイメージ]（府中市青少年吹奏楽団ホームページより）

③交流する場

・公演の有無に関わらず、日常的に人が集まることで賑わいを創出する。

○周辺の回遊性向上、エリアの価値向上に寄与する利活用を検討する。

ロビーや屋外空間を利活用し、芸術文化ホールとしての機能のみならず、日常的に人が立ち寄り、様々な活動を生み出すことができる機能を導入する。

○芸術文化を発信する機能を検討する。

本市における芸術文化発信の拠点性を担うことにより、多くの人が集うことが期待できる。また、市民が芸術に触れる機会を創出する。

[イメージ]コヴェントガーデン(ロンドン)
（Wikipedia より。©Henry Kellner）

（３）規模について

現在の金沢歌劇座は県内最大規模の収容能力を有し、その点が強みとなっていることから、同程度の規模を維持すべき。

なお、市内の大規模ホールとしては、金沢歌劇座のほか、本多の森ホール、県立音楽堂、文化ホールがあり、規模の側面からは棲み分けがなされている。このように、地域に様々な収容能力の施設があることは、公演や演者の幅が広がり興行の観点からも有益である。

【参考】市内の大規模ホール

金沢歌劇座（下本多町）	1,919 席
本多の森ホール（石引４丁目）	1,707 席
県立音楽堂（昭和町）	1,560 席
文化ホール（高岡町）	899 席

（４）課題

①整備区域

○高さ制限

金沢歌劇座の敷地の現在の高さ規制は 18m である一方、現存建物の高さは 21m である。

よって、前述の芸術文化ホールに求められる機能を満たすために、必要な建物の規模を設定した上で、地下化など、高度地区 18m の規制に対応していくための検討を要する。

○敷地

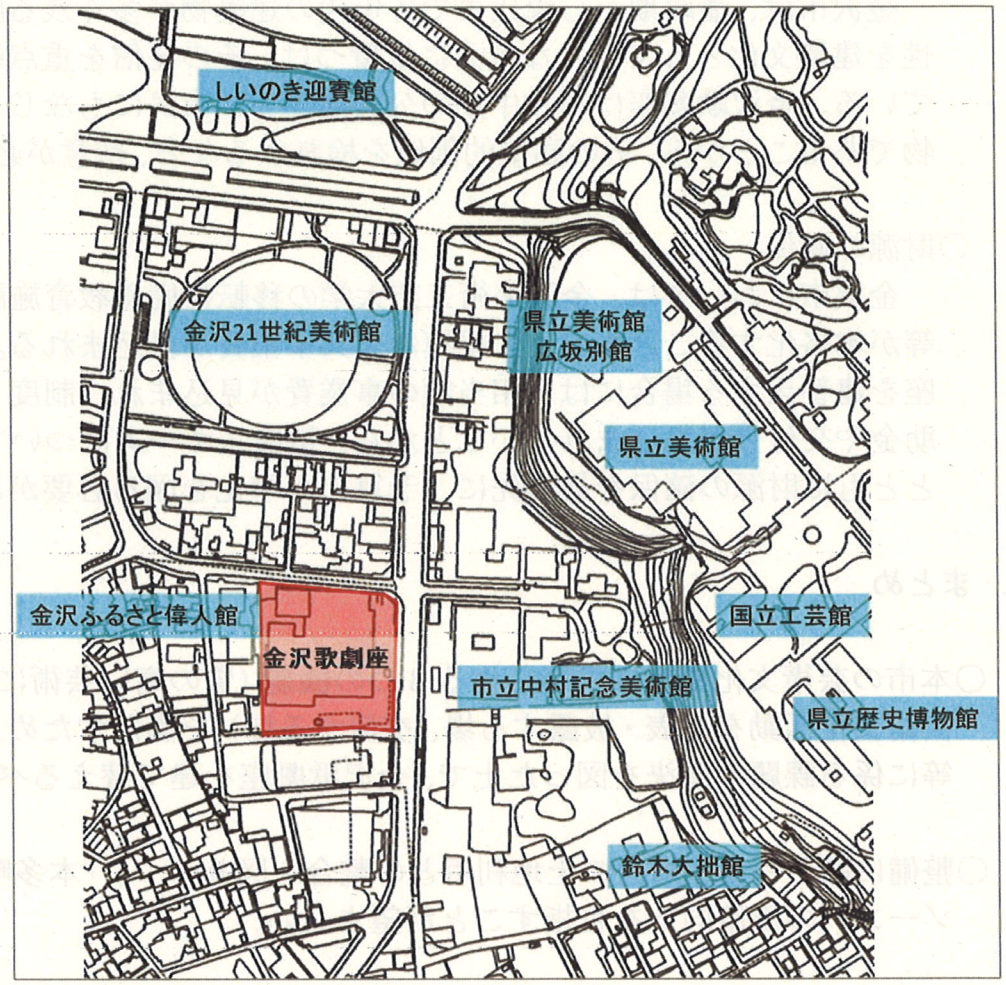
高さ規制への対応と同様に、芸術文化ホールに求められる機能を確保するために必要なスペース、付帯設備を設けるにあたり、当該敷地内で配置が可能か検討を要する。

できない場合は、周辺敷地をどのように活用するか検討が必要である。

②周辺エリアにおける位置づけ

○周辺の土地利用との整合

美術館やホールなどが集積する金沢歌劇座周辺を「本多町芸術文化ゾーン」とし、歌劇座を核として、当該エリアの価値向上を目指すためには、周辺の今後の土地利用との整合を図っていくことが必要不可欠である。



③その他

○芸術振興のためのソフトの検討

質の高い公演が可能となる施設が整備されても、実際にそうした公演が開催されなければ、また、質の高い公演が開催されても、集客や市民の関心が伴わなければ、真の意味で、本市の文化水準の向上につながらない。

このように、ホールの質の高さと並んで「質の高い」観客が集まることで、公演する側に選ばれる施設・都市となることができる。

そのため、市民一人ひとりや、企業を含めた民間主体が芸術文化に関心を持ち、文化を育てることを推し進めることが重要である。

○会議機能の検討

現在の金沢歌劇座の会議棟における会議室は、会議のほかホール利用者の楽屋等にも供されている。

芸術文化ホールの整備にあたり、会議室の機能、楽屋・リハーサル室の機能のバランスをみながら、会議機能の規模のあり方について検討する。

○現建物の建築意匠

金沢市は、藩政期から現代まで各年代の建築物が多く残る歴史的重層性を建築文化として新たな魅力に位置づけ、その発信を重点戦略に掲げている。金沢歌劇座は昭和中期の公共建築で、市民にもなじみのある建物であることから、その建築的価値を検証するなど、留意が必要である。

○財源の確保

金沢市においては、金沢美術工芸大学の移転整備や教育施設の再整備等が本格化することから、大規模な公共事業費が見込まれる。金沢歌劇座を建替えする場合には、相当額の事業費が見込まれ、制度上、国の補助金や交付金が見込まれないことから、整備スキームについて検討するとともに財源の確保を最優先に、予算の平準化を図る必要がある。

4．まとめ

○本市の芸術文化拠点に求められる３つの機能（質の高い芸術に触れる場、芸術文化活動を発表・披露する場、交流する場）を満たすため、整備区域等に係る課題の解決を図った上で、金沢歌劇座を建て替えるべきである。

○整備に際しては、周辺の土地利用との整合を図りつつ、「本多町芸術文化ゾーン」の価値向上を目指すことが望ましい。

金沢歌劇座あり方検討懇話会

1．委員

小幡　英典　こまつ芸術劇場うららら館長

角 谷　　修　金沢美術工芸大学教授

浜崎　英明　金沢経済同友会代表幹事

座長　水野　一郎　谷口吉郎・吉生記念金沢建築館長

宮下　智裕　金沢工業大学准教授

宮本　伸一　公益財団法人金沢芸術創造財団理事長

村 山　　卓　金沢市副市長

山田　正幸　風と緑の音楽祭チーフプロデューサー

吉田　千尋　石川県吹奏楽連盟副会長

吉 田　　仁　一般財団法人石川県芸術文化協会理事長

（五十音順）

2．懇話会開催実績

第１回　令和元年６月 11 日（火）
金沢市役所４階　405 会議室

第２回　令和元年 10 月 23 日（水）
金沢市役所７階　第一委員会室

第３回　令和２年１月 17 日（金）
金沢市役所７階　第一委員会室